

「金沢の地形(1)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

地方の大きな都市の中で、およそ金沢ほど変化に富んだ地形を持ったところも少ないだろう。私はもともと地形図を見るのが好きなのだが、金沢の地図は特に面白い。「秋の金沢紀行」改め、「金沢の地形」を少し連載してみようと思う。

ある土地の地形を大観する場合、1:50,000 といった大縮尺の地図よりも、1:200,000 程度の小縮尺の地図のほうが有利である。国土地理院の「地勢図」はその縮尺で、地形の大観には最も適している。

子どもが持っているような地図帳の図幅では、標高0~50m程度までは、一様に黄緑色に塗られていることが多い。しかしこれだと、金沢市の大部分は、1色で表現されてしまい、段丘や丘陵地といった細かい地形は無視されてしまう。役に立つのが、国土地理院の地形図閲覧サービスで作成できる「色別標高図」である。

(下)「金沢市の色別標高図」(作図; C. Tanaka)

地名や段丘(台地)名は、私が入れて完成させた。これを見ると、内灘砂丘(日本第三位の規模)から、平野、段丘(台地)、沖積地、丘陵、山地、扇状地と、地形のデパートのような土地とわかる。(つづく)



「犀川大橋」 写真左が「犀川沖積地」、右が「寺町段丘」。この橋は「段丘崖の縁」にかかっているため、微妙に傾斜しているような気がする。

